

# 状態別対応セミナー 介護予防編

## ～修了を見据えた関わりとは～



開催日：令和5年6月17日（土）  
会場：オンライン開催  
参加者数：21名

### 研修認定委員会より

本研修会は、状態別対応セミナー介護予防編として新たに新設された研修会です。従来、開催されていたリハマネジメント研修会や疾患・状態別プログラム研修会のグループワークで幾度となく話題に挙がっていた”修了を見据えた関わり”をテーマに、「介護予防通所リハに求められる機能」から「要支援者におけるケアマネジメントについて」、「2事業所からの実践報告」など幅広く学ぶことできる研修会となっています。令和3年度改定では、要支援者における長期利用減算も始まっています。これを機会に一緒に修了を見据えた関わり方を学んでみませんか。

介護予防通所リハに求められる機能とはなにか？  
要支援者におけるケアマネジメントについて  
介護予防通所リハ事業所の取り組み  
修了に向けた地域との連携  
介護予防通所リハの修了に向けた事業所の課題と  
その解決に向けて明日からできること

# 状態別対応 セミナー 介護予防編

～修了を見据えた関わりとは～

**2023.6.17 SAT** 10:00  
16:15

【開催方法】	【受講費】
<b>オンライン開催</b>	〈本セミナーのみ〉
【定員】	会員：5,000円（税込）
<b>50名</b> （定員になり次第締め切り）	非会員：10,000円（税込）
【申込方法】	〈本セミナー + 中重度者編*〉
QRコード、または協会HPより申し込み ください。※ 詳細は裏面参照	* 中重度者編とのセット額¥1,000円引き
【お問合せ】	会員：9,000円（税込）
E-mail <a href="mailto:kenshu@day-care.jp">kenshu@day-care.jp</a>	非会員：19,000円（税込）

一般社団法人 全国デイ・ケア協会



2023年度

# 状態別対応セミナー 介護予防編 ～修了を見据えた関わりとは～

開催日：令和5年6月17日（土）

会場：Zoomによるオンライン開催

## プログラム

- 10:00～10:05 事務連絡・オリエンテーション
- 10:05～11:05 **講義①介護予防通所リハビリテーションに求められる機能とは何か**  
講師：岡野 英樹 一般社団法人 全国デイ・ケア協会 理事  
医療法人真正会 本部
- 11:15～11:45 **講義②要支援者におけるケアマネジメントについて**  
講師：三浦 晃 株式会社リエンス
- 11:45～12:10 **グループワーク①自事業所の課題の共有**
- 12:10～13:00 休憩
- 13:00～14:20 **実践報告① 介護予防通所リハ事業所の取り組み**  
**実践報告② 修了に向けた地域との連携**  
講師：山本 江史子 介護老人保健施設鴻池荘  
藤本 健 八尾はあとふる病院
- 14:30～16:15 **グループワーク②介護予防通所リハの修了に向けた事業所の課題と  
その解決にむけて明日からできること**
- 16:15 閉会

## 要支援認定者の状態像とは

### 要支援1

日常生活上の基本的動作については、ほぼ自分で行うことが可能であるが、炊事、洗濯等の家事、薬の管理、電話の利用、金銭管理等、生活するうえで必要な活動に社会的支援が必要な状態。

### 要支援2

立ち上がりや歩行等の身体的な動作が不安な状態であり、要支援1の状態よりわずかに低下がみられ、社会的な支援の他にも何らかの支援が必要な状態。

### 「要支援2」と「要介護1」の分かれ目となるポイント

#### 1. 認知症であるかどうか

運動機能以外に、認知機能の低下が見られるかどうか。認知症高齢者の日常生活自立度で認知症の可能性が高ければ、要介護1と判定される可能性が高い。

#### 2. 状態が安定しているかどうか

半年以内に状態が大きく変わり、介護量が増えると見込まれる場合は、要介護1と判定される可能性が高い。

## 「修了する」こととは

### 基本的理解として…

- リハサービスとして、移行支援加算や生活行為向上リハ実施加算の要件から、修了することが求められている。
- 目標を達成して利用を終えた場合や、社会参加につながった結果として利用を終えた場合など、全国デイ・ケア協会では「修了」と定義。
- 修了は、当事者が暮らす上での具体的な目標が達成され、生活能力や生活空間が利用開始時よりも向上・拡大した場合や、通所リハの利用継続を必要としない状態となった場合に検討される。

### 散見される実態として…

- 当事者の状態像把握が不十分なまま、機械的に修了を押し付ける。
- 当事者の状態像把握が不十分なまま、漠然とサービス提供を継続する。
- なぜ利用の継続が必要かを十分検討していない。
- 修了は関係性まで絶つものとイメージしている。
- 修了後のサポートを人任せにしている。